

Motivated Agents の検証：日本の介護従事者のケース

加藤善昌*

要旨

本稿は日本の介護労働者を対象として、“Motivated Agents”を検証した論文である。“Motivated Agents”とは、利他的動機や内発的動機といった非貨幣的要因に強く動機づけられた労働者である。そして、海外の先行研究では、非営利組織や公共機関の労働者に多くみられることが指摘されている。本稿では『介護労働実態調査』の2016年度版の労働者データを用いて、“Motivated Agents”の存在を検証した。分析方法としては、労働者の現在の就業先の法人形態を被説明変数とし、かれらの就業理由とその構成因子を説明変数として多項ロジットによって推定した。分析の結果、利他的動機や内発的動機、そして組織の理念への共感は、労働者の就業先の選択に対して大きな影響を与えることが判明した。しかし、海外の先行研究とは異なり、非営利組織や公共機関の労働者よりも営利企業の労働者の方が自身の内発的動機や組織の理念に影響されやすいことも判明した。この理由としては、近年の日本人の行動規範の変化や企業の社会的責任の重視の進展が考えられる。

キーワード；介護従事者, Motivated Agents, 非営利組織, 内発的動機, 企業の社会的責任
JEL コード；I11, D91, L31, L33

* 姫路獨協大学 人間社会学群 産業経営学類
z_kato@gm.himeji-du.ac.jp